

# 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872200619		
法人名	社会福祉法人はりま福祉会		
事業所名	せいりょう園グループホーム		
所在地	兵庫県加古川市野口町長砂90-1 (電話) 079-421-7156		
評価機関名	福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成19年9月10日	評価確定日	2007年12月15日

【情報提供票より 事業所記入 (2007年8月1日)】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年1月7日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	22 人
職員数	14 人	常勤 6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	10.7

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	木造
	2階建ての1~2階部分	平屋建て

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	(2,400,000 円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	700 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

### (4) 利用者の概要 8月1日記入

利用者人数	22 名	男性	5 名	女性	17 名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 78.2 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村医院、中井歯科
---------	-----------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人全体の協業で、成熟し安定したグループホーム運営が行われている。利用者のその人らしさをありのまま受け入れ、利用者主体の生活支援に努めている。法人の他のサービスや地域とのつながりを通して積極的に利用者の意向に添う姿勢をとっている。利用者はゆったりと落ち着いた環境の中で、職員との心もった支援を受け、穏やかな毎日を過ごしておられる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ・玄関先に草花を植えたり植木を置く等家庭的な雰囲気作りをした。床の汚れを指摘されたが、掃除をしても汚れが取れず、保留している。ヒヤリハット報告書は再発防止への取り組み方法や工夫等記載するようにした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価は職員全員で行った。管理者は一連の流れの中で、職員によって捉え方が違うことや、地域密着型サービスとして今後の地域とのより積極的な関わりについての具体的な対策を考えるようになった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 今年6月第一回目が開かれ、事業計画を見てもらいグループホームの取り組みを説明し、相互の意見交換を行った。次回は第三者評価について報告する予定である。今後は市担当者にも参加を依頼し、市と共にサービスの質の向上に取り組んでいきたいと考えている。
	重点項目 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は報告し家族等の不安へ対応している。また家族等が来訪時に、意見や苦情が出しやすいよう声かけし、出てきた意見等は積極的に取り入れて運営に反映させている。今後は運営推進会議にメンバー以外の家族にも参加を呼びかけ、家族等との意見交換の場を増やしたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 法人は地域福祉に貢献できる施設でありたいと双方向の関係づくりに努めている。利用者についても行事の参加のみならず日常生活の中で、地域の住民と共に行う作業を通して、顔なじみの関係が深まるよう配慮している。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・グループホーム独自の理念は作っていないが、法人の理念は利用者が地域の中にとけこんで、家族等や近所と常にかかわりを持てるよう支援することが盛り込まれている。		・グループホームとしては、認知症高齢者が小さな集団の中で自らが持つ生活能力を十二分に発揮して、最期まで自己の尊厳を保つ生活ができるよう援助している。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念に基づいて本人の意思の尊重や残存機能の発揮等を月1回の全体会議や、毎日のミーティングで確認し、具体的なケアの意思の統一を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の行事への参加、事業所の行事への参加の呼びかけを行う等地域との交流に努めている。法人主催の介護者の集いを月一回開催して、地域の相談を受けている。		・行事の時だけでなく、日常生活の中で、近所の清掃を地域の住民と一緒にする等の共同作業を通して、顔なじみの関係を作っていきたいと事業所は前向きに考えている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行った。管理者は一連の流れの中で、職員によって捉え方が違うことや(職員の見方、伝達の理解の違い)、地域密着型サービスとして今後の地域とのより積極的な関わりについての具体的な対策を考えるようになった。		・事業所は自己評価を通して、利用者が地域の主人公のひとりとして認識されるにはどうすべきかを、別の角度から課題を考えることができた。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・地域住民、在宅介護支援センター職員、有識者、家族代表、事業所管理者等で今年6月第一回を開催した。事業計画をもとに事業所の取り組みを説明し、双方の意見交換を行った。家族がオブザーバーとして4～5名参加された。</p>		<p>・次回は第三者評価について報告する予定</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・地域密着型に位置付けられ、住所地の変更や手続きで接点が多くなった。他の事業所と連携して、医療連携加算等、市の見解や基準について確認したり、意見交換の機会が多くなった。</p>		<p>・訪問看護や主治医との連携で重度化による医療措置にも対応し、終末期まで支援している。本人と共に配偶者も同居入所して在宅サービスを受けている。現在では2組の夫婦が利用している。法人の行事にも自由に参加されている。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・利用者の医療面に関する報告や相談、金銭管理等は随時報告している。利用者の暮らしぶりは家族の来訪時に行っている。訪問のない家族には、3ヶ月に一度ぐらいの程度で、近況報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・苦情箱を設置している。家族等来訪時には声かけて、意見や苦情を出しやすいように配慮している。出てきた意見は積極的に取り入れ、運営に反映させている。</p>		<p>・家族会の設置等家族同士で意見が出せるような仕組み作りの検討を望みたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・法人のもう一つのグループホームを含め3ユニットで職員は定期的に異動している。法人は、定期異動により職員が全利用者の状況を知り、援助に緊張感が持て、ケアの質の向上につながると考えている。</p>		<p>・家族等の中には法人の意図を理解できなくて、何時行っても職員が違うと不安がっている人もいる。異動によるメリットと利用者への配慮についてわかりやすく説明する事が必要と思われる。</p>


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・運営者は職員に外部研修の情報を提供し、2市2町のグループホーム協会の研修の参加を奨励している。法人内部でも全体及び個別の研修をして、職員を育てる取り組みを行っている。		・ケアの統一、利用者への声かけ等の接遇も管理者やリーダーが働きながら指導している。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・2市2町グループホーム協会の勉強会を開催している。会場は持ち回りで、グループホーム相互の訪問活動等取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用開始前に本人、家族にホームに来てもらうとか、自宅を訪問して本人の暮らしぶりを理解し、ホームに馴染んでもらう工夫をしている。納得しないで利用にいたる場合は家族と協力し、本人に時間をかけて対応して、安心してもらえるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・調理、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ等声かけして、利用者と共にしている。生活のリズムは急かさず本人の希望にあわせている。職員に利用者の方から声かけして気遣ってもらうこともある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・本人が自分の変化をどう受けとめているか、他者との関係をどう取っていくか等、本人意向にそって、職員が介在するようにしている。職員は利用者の思いや意向の気づきを記録して、共有している。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・担当職員が本人との会話や行動の観察をして、その人らしく暮らす計画を立て、全職員で討議して介護計画を完成している。家族等、訪問看護や以前のケアマネジャーの意見をプランに取り入れている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・利用者の細かな変化を見落とさないで、変化に応じて職員間で話し合い、家族等、主治医、訪問看護等の意見を参考に介護計画を見直している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・訪問看護や主治医との連携で重度化による医療措置にも対応し、終末期まで支援している。本人と共に配偶者も同居入所して在宅サービスを受けている。現在では2組の夫婦が利用している。法人の行事にも自由に参加されている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・これまでのかかりつけ医を基本としている。利用者の状態に応じ本人、家族と相談のうえ、ホーム主治医を選択し、往診依頼にも対応している。24時間及び緊急時は、訪問看護、主治医とも連携体制はできている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・契約時に、方針について家族に説明している。状態悪化時には、家族や主治医と連絡をとりながら意思確認をしている。終末期近くには、記録をより詳細にとるとともに訪問看護の連携体制をとっている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>・職員は、自分の思い込みや偏見でみないよう、常に配慮している。誇りを損ねることのないよう気をつけている。表面の言葉だけで利用者を判断することのないよう職員間で常に話し合い確認している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・利用者一人ひとりに問いかけながら、その人のペースの生活に心がけている。職員は、利用者の体調面に注意し、職員間の引継ぎはきめ細かく行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・利用者が一緒にできることを見つけながら声かけしている。利用者と一緒に食事しながら季節感のあるメニューなどの工夫に心がけている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・週2回は入浴してもらっている。利用者一人ひとりの希望を最優先に、その人にあった声かけをしている。シャワー浴、足浴など季節、時間に合わせて行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・洗濯物たたみ、花の水遣り、畑の手入れや草抜きなどそれぞれのペースで過せるよう支援している。家族、知人の来訪は時間制限なく勤めており、併設特養での行事への参加も支援している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・散歩を日課に一人で散歩している人、併設の喫茶店や近くのスーパーに買い物に行ったりと、一人あるいは何人かで出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・センサーの設置はあるが、鍵はかけていない。外に出られる利用者には、職員がさりげなく見守っている。近隣住民にはホームの主旨を理解してもらい協力を得ている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・法人全体での消防訓練は年2回、通常の訓練とともに、夜勤の場合を想定した訓練も行っている。3ヶ月分の水、非常食は備蓄している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・献立は栄養士がたてており、利用者個々の摂取量は把握している。水分量は個々の居室に好みの飲料を置いている人もおり、適時飲んでいる。体調管理の必要な人には個別に記録を取り、医師とも相談している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・玄関には、鉢植えを置き、めだかを飼育し和める雰囲気作りをしている。食堂の窓の日よけ対策としてすだれを置いている。家族からの提供品である手作りの品もところどころに飾られている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・一人ひとり馴染みの家具、調度品が置かれている。テレビの好きな人、音楽が聴くのが好きな人などそれぞれ自由に過ごしている。</p>		

 は、重点項目。